

# 平成22年度 横浜市立新治特別支援学校 学校評価報告書

共通取組		取組目標	自己評価結果	改善策	評価
児童生徒育成	人間形成	コミュニケーション能力の育成、改善を図り、感情や考えを自分なりに表出する方法を身につけます。集団の中で自分の特徴や力を発揮できる適応力を身につけ、社会参画を促します。	チームワークよく多くの教員が子どもたちに関り、特性を引き出そうとしている。	子どもの力をより効果的に引き出せるよう多くの機会をつくるとともに、子どもの自発的な動きを重視した指導を展開する。	A B C D
	【学校関係者評価委員会からの意見】				
	障害特性に応じた指導	保護者と連携、相談のうえ、個別的教育支援計画を作成し、個々のニーズに沿った学習課題に取り組みます。定期的な評価とともに、保護者との話し合いを積極的にもち、より効果的な指導、支援に努めます。	保護者との連携は意識されているが、個別的教育支援計画の説明や日ごろの授業に関する意見交換などがはつきりできていないと言いつれない。	保護者との相談、連携をより積極的にもつよう機会の設定を増やす。専門性を高め、障害特性に応じた指導支援の方法を個別的教育支援計画に反映させる。	A B C D
【学校関係者評価委員会からの意見】 個別学習の展開に工夫がほしい。					
センター的機能の取組	取組目標	コーディネーターを専任化し、地域の中での地域支援、小中学校支援をより拡大する方向で積極的に進め、その経験を移転先の若葉台地区で包括的な地域交流、地域支援として発展させていきます。	コーディネーターの専任化を視野に入れセンター的機能の発揮のため小中学校や関係機関との連携を進めた。	来年度はコーディネーターを専任とし、業務内容を明確にし、職員の共通理解のもと、より積極的に活動を進めていく。	A B C D
	【学校関係者評価委員会からの意見】 地域支援の窓口としてコーディネーターの存在は大きい。 コーディネーターの業務が不明確な面もある。校内での共通認識と理解が必要である。				
校内人材育成	取組目標	「学びあう」「教えあう」ことで人材育成とともに、学校全体の教師力の向上を図ります。年次研等を中心に授業研究を積極的に行います。教職員個々のキャリアステージの向上を図ります。	年次研等を機会として授業研究を行ったが、対象授業者止まりで、学校としての授業力の向上に結びついていない。	公開授業研究等、積極的に外部にも意見を求める。研究協議会を改善し、明日からの授業に活かせるような取り組み方法を考える。	A B C D
	【学校関係者評価委員会からの意見】				
重点取組	取組目標	学習指導要領に関する研修会を3回実施、教育課程の見直しを進めている。	個別的教育支援計画、個別指導計画に則った教育を意識し、内容を重視した指導の実践と成功例の共有を図る。	A B C D	
教育課程・学習指導	【学校関係者評価委員会からの意見】 自立活動の重視とともに、基礎教科学習的な内容の導入、教育課程の組み立ても必要ではないか。				
保健管理	取組目標	毎月4回、定期的に医療的ケアワーキング部会を開催し、全校的に統一視点で点検と課題検討を行い、安全確実な医療的ケアの実施に努めます。保健室とクラス担任が十分連携をとり、児童生徒の健康、医療面の管理を進めます。	毎月4回定期的に医ケアワーキング部会を開催し、安全確実な医ケアの実施、管理に努めた。	医ケアに関する研修の充実。保護者の要望の把握と迅速な検討、対応をめざす。保健室とクラス担任の連携をより強める。	A B C D
	【学校関係者評価委員会からの意見】 医ケアのさらなる充実を望む。保護者との連携をより進めてほしい。				
交流教育	取組目標	新治小学校はじめ近隣校、副学籍校との交流に積極的に取り組みます。また、移転後の交流が円滑に進められるよう準備を進めます。	新治小との自然交流、行事交流を進めることができた。 副学籍交流は15名実施。	新治小との交流優先ウィークを拡充する。若葉台地区での交流の機会を探り、積極的な展開を進める。	A B C D
	【学校関係者評価委員会からの意見】 新治小との交流がとてもしい形で行われている。より広げつつ、移転時期もいらんで若葉台地区への展開を望む。				

## 10の取組分野における評価結果

取組分野	取組目標	自己評価結果	改善策	評定
教育課程 学習指導	※ 重点取組分野での設定のため記載なし			A B C D
進路指導	施設見学会、進路面談、現場実習等、学部、学年に応じた継続的、系統的な進路指導を行います。 中1～高3の各学年で1回以上個別面談をもち、個々のニーズを把握し、適性、環境等を配慮して個に応じた進路指導を行います。	当初予定していた見学会、面談、実習等を実施。継続的、系統的な進路指導、支援の体制をとることができた。	特に低学年の保護者には浸透していない部分も多い。長いスパンでのキャリア教育の観点でさらに整備、推進して行きたい。	A B C D
児童・生徒指導	児童生徒を取り巻く諸課題について、担任と特別支援教育コーディネーターが連携して情報収集、連絡調整を行い、校内委員会を中心に検討し、早期の解決を目指します。	諸課題に対してコーディネーターを中心に迅速な対応で取り組むことができたが、担任との連絡が不十分な事例も見られた。	担任、コーディネーター間の連絡、連携をより意識し、共通認識をもって取り組みたい。	A B C D
個別の教育支援計画・個別の指導計画の活用	個別の教育支援計画に関して保護者との共有を図り、年度末保護者アンケートで「説明不足」の指摘をゼロにします。 一部学年で新書式を使用して個別の教育支援計画を作成、活用し、年度末に書式について見直しを行います。	年度末保護者アンケートでは「説明不足」の意見はなかったが、記入の仕方等に関して意見をいただいた。改善を図りたい。また、日ごろの指導支援に個別の教育支援計画が適切に反映されていたと切りきれない部分もある。	保護者の要望、ニーズを引き上げながら個別の教育支援計画を意識した授業計画を立て実践する。日ごろの授業の目標等について保護者と共有できるよう工夫する。	A B C D
保健管理	※ 重点取組分野での設定のため記載なし			A B C D
安全管理	全校避難訓練、新治小学校との合同避難訓練を行い、小学校と連携して防災、防犯体制を確認、整備します。 緊急下校訓練、職員防災研修、不審者対応研修を行い、緊急時の適切な対応を身につけるとともに危機管理の意識を高めます。	全校避難訓練、新治小との合同避難訓練を実施。緊急時対応訓練も積極的にこ行い、危機管理意識を高めることができた。	安全防災部を独立設置し、さらに安全管理体制を強化する。 危機管理研修のための研修時間を確保する。	A B C D
組織運営	校務分掌、校内委員会の組織がより効率的に機能するよう、現状の課題点の整理をするとともに、他校、特に県立校、他県校の組織分析を行い、組織全体の見直しを行います。	校務分掌組織を見直し再編成することができた。 コーディネーターの位置づけが不明確な点があった。	コーディネーターを専任とし、業務内容、取り組みの方向性を全校的に確認する。 組織見直しをさらに進める。	A B C D
教職員の研究・研修	校内外の研修に積極的に参加し、力量の底上げ、新しい知識技術の導入に努め、授業力の向上を図ります。 初任から3年次までの教職員を中心にベテランがアドバイザーになってメンターチームを作り、毎月1回定期的な会合をもちます。	校外の研修に参加しにくい意識がある。 PTや摂食など、日々の子どもの支援に役立つような研修会がほしい。 校内研修が効果的に行われているか見直しが必要ではないか。	校内研修会の目的や対象者を明確にし効果的な研修の実施を図る。 メンターチームの定期的な活動を進める。	A B C D
保護者・地域住民との連携	学校だよりを4回発行し、経営方針、日常の活動のようす、謝情報などを、保護者や地域に積極的に発信します。 移転後の地域交流が円滑にもてるよう移転先地域との事前の懇談、意見交換を積極的に行います。	学校だよりを4回発行し学校のようすを発信した。 若葉台地区社協と本校PTAを中心に懇談・意見交流会を6回開催した。 オープンスクールウィーク等で地域、関係者に開かれた学校づくりに努めた。	渉外部を地域支援部として再編し、より地域との連携を円滑にすすめる。	A B C D
教育環境整備	毎月1回定期的に校内外の安全点検を職員全体で行い、チェックリストに記載し、危険箇所はすみやかに改善を図ります。 新校舎の教育環境整備の準備を進め、全職員で協力して年度末までに新校舎の実施設計を完成させます。	安全点検を定期的実施し、危険箇所等を把握、迅速な対応に努めた。 新校舎の実施設計に際して、要望等をまとめて設計図面に反映させることができた。	子どもの周りの物品の置き方にも配慮し事故防止に努めるとともに、望ましい教育環境の設定を考え実践を図る。	A B C D
その他 (副学籍による交流等)	※ 重点取組分野での設定のため記載なし			A B C D

### 【学校関係者評価委員会からの意見】

PT、OTなど専門職の導入、看護師の増員などの検討も必要ではないか。  
先生たちのエネルギーな元気が子どもたちにもいい影響を与えている。アットホームな暖かい雰囲気は今後も大切にほしい。